



I-OWA マンスリー・セミナー講演より ウォール街の歴史(その1)

講演: 岡本 和久
レポーター: 赤堀 薫里

3回に分けてウォール街の歴史を話しますが、今日はその第1回目です。現在の資本市場の中心はやはり何と言っても米国です。証券制度や投資手法も米国が中心に進んできています。英国やオランダよりは少し歴史が短いですが、米国市場は長い歴史を持ちデータも豊富である、ということでウォール街の歴史についてお話をします。

証券取引所の歴史ですが、ある一箇所の決められた場所で「取引」をするという意味では、古代のギリシャやローマの時代からありました。本格的な取引所は1531年にアントワープに開設された取引所だと言われています。東インド会社はまだできていませんが、ちょうどこの頃、大航海時代が始まります。ロンドンに取引所ができたのが1566年。1730年、吉宗の時代に日本の堂島で米会所が始まりました。堂島の米会所は世界の中でも、きちんと制度が整った最初の先物取引所であると言われています。東京株式取引所は1878年に出来ました。

ニューヨーク取引所は1791年。諸説ありますが、オランダ植民地行政官スティヴェサントが、壁を作ったのでウォール街と呼ばれるようになりました。ニューヨークにいた貿易商人ウィリアム・デューアーは、著名な投機家で、大陸会議のメンバーでもありました。貿易でも盛んに投機をしたけれど、結局、失敗して破綻。債務者刑務所に入ったという事件が起こります。そこで、1792年、もっときちんとした制度に基づく取引所が必要だということで、すずかけ(ボタンウッド)協定が結ばれました。

1812年に対英戦争が始まります。戦争が始まり、英国からの資金流入が途絶えると、いかにアメリカ新大陸が、英国の資金に支配されているのかが明確になってきます。そこで、米国政府は戦費の調達として戦争債、債券を発行しました。その債券の発行の仕方は、お金持ちが一括して国から購入して、マージンを乗せて一般庶民に売ります。これでだんだん証券引受けという形態が出来上がってきました。

当時、連邦派は、各州の独立派ともめていました。各州に銀行があり、それぞれが通貨を発行していました。しかし、まとまって一つの組織がないといけないということで、1791年に初めて第一合衆国銀行が設立されます。免許が20年与えられました。しかし独立派の反対が強く、20年後の



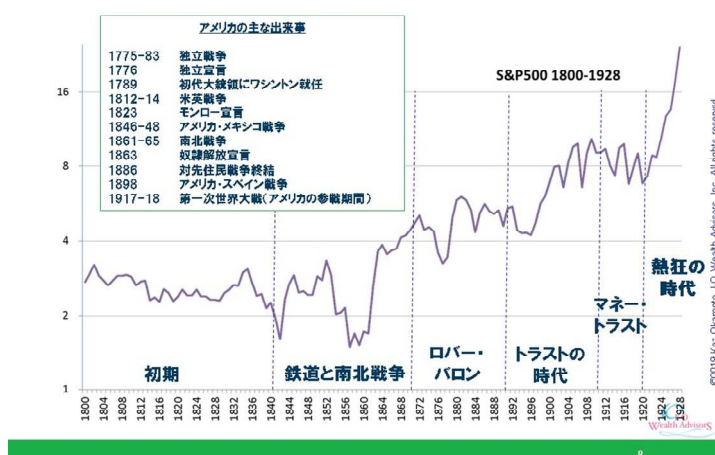
長期投資仲間通信「インベストラ이프」

免許更新は認められませんでした。5年後、1816年第二合衆国銀行がもう一度できますが、やはり20年後、更新してもらえなかった。州ごとの独立性が今でも強く、とても重視されています。憲法は合衆国(連邦)がすることをチェックするためにある、と明確にあります。

1817年にニューヨーク証券取引所が設立されます。当初はバッテリー・パーク近くのトンティン・コーヒー・ハウスのボードルームで取引が行われていましたが、その後1840年にウォール街に移転しました。一方、ニューヨーク証券取引所の外で取引をしていた人たちがだんだん大きくなることでアメリカン取引所になりました。もっとも、当時の株式取引は極めて投機的で、売買の中心はデマやうわさに基づく仕手戦でした。

カリフォルニアで発見された金につられてフォーティーナイナーたちが西部に行って東西の交通が盛んになってきました。交通網として運河から鉄道が中心となります。この頃から新技術ができます。運河、ターンパイク、鉄道等、交通網も良くなりました。通信情報化も進みます。そういう中で新しい証券市場がどんどん増えてきます。ロスチャイルド、クーン・ローブ、ゴールドマン・サックス、このような人たちが証券業を始め、資金調達を新技術と合体してやっていく。

S&P500指数 1800年～1928年



この辺が日本の明治時代と違うところです。明治時代は堂島の米会所。米取引はヘッジと投機が中心で、資金調達の意味は少なかったのです。要するにトレードです。それが日本の証券取引所の中でずっと続いてきた。渋沢栄一は合本主義と名付けて、資本を集めて企業を作るという考えもありました。しかし、株式の値段が取引の動機になっているというのは、いまだに続いているような気がします。アメリカの場合、新技術が出るとそれを企業化して、投資をした人は大儲けをしようというのがあるわけです。大きな違いは資金を起業家に提供してその成功の分け前を将来もらうということ、つまり資金調達がもとになっていた。

ゴールドラッシュが起こりましたが、人口はどんどん西へ移っていく。西部に銀行がどんどん出来てくる。金が採れるので、資金量、通貨がどんどん増えていきます。通貨インフレが起きます。バブルが起きますが、崩壊してそれが東海岸の経済の方に大きなダメージを与えた。これを、西からのブリザードと言われています。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

講演では、はじめにアメリカの歴史の解説、ロスチャイルド家とアメリカ財閥の説明、モルガン家の興隆、トラスト時代、発明家と資金調達、マネートラスト、咆哮の 20 年代について興味深い解説をいただきました。